

令和5年度

普通科改革支援事業 指定校発表会 資料

兵庫県立御影高等学校

Hyogo Prefectural Mikage Senior High School

学校長 森本 成己

【兵庫県立御影高等学校】学際領域学科（令和6年度設置予定）

学科設置の目的・特色

広がる学び、多様な未来

予測不能な今後の社会において、多彩な力を発揮し、新たな価値を創造しながら活躍できる人を育成することを目標とする。その目標を実現させるため、**校外機関とも連携**をとりつつ、生徒の学びのフィールドを校外に広げ、**学科独自の開講科目**を軸に、多様な認識や高次の認識を育てながら、**学際的に取り組む探究活動**を展開することで、生徒の知的好奇心を高めるとともに、主体性や協働性、課題解決能力、言語表現スキルの伸長をはかる。

校外機関との連携

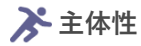
コーディネーターを活用し、新たな思考や新たな価値観、知的好奇心を育てるために、大学や行政、研究機関、企業や社会貢献を行う団体等と連携した教育活動を実践

学科独自の開講科目

教科の専門知識を幅広く受講を可能とするとともに、実社会で活かすことができる「読解力」や「論理的思考力」「対話力」「表現力」等を磨くための科目を設置

学際的に取り組む探究活動

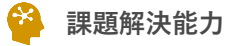
探究のプロセスを体系的に学び、自らの興味関心に応じた課題研究や、地域に関する探究活動に学際的に取り組む授業を設定し、生徒個々が主体的に探究を実践



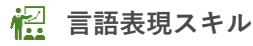
主体性



協働性



課題解決能力



言語表現スキル



多様な認識

育てたい生徒像

地域や国際社会のありようをしっかり目を向け、社会に貢献しようという志をもち、さまざまな事象の解決や是正、および、原因の追究に粘り強く挑戦し続けることができる生徒

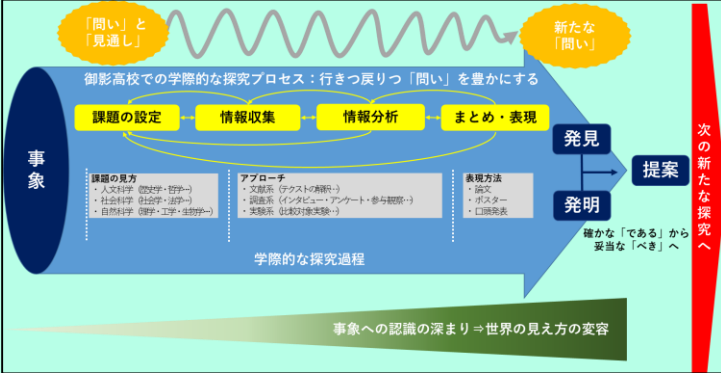
人文・社会・自然科学の専門知識を深め、事象を多面的に認識ができるようになるとともに、自らの読解力や論理的思考力を磨き、新たな価値を見出だそうとする好奇心をもつ生徒

地域や国際社会に生きるさまざまな方と対話を重ねつつ、自ら学び、考えて行動できる主体性や、周囲の仲間と協働しながら物事に取り組む中で、リーダーシップが発揮できる生徒

令和4年度の取組・成果

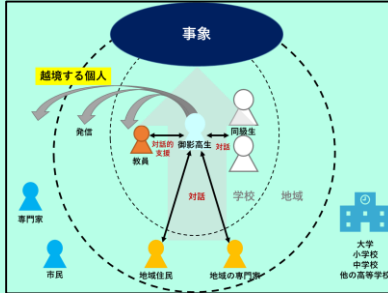
カリキュラム開発

図1：御影高生の学際探究モデル：個人探究の深まり



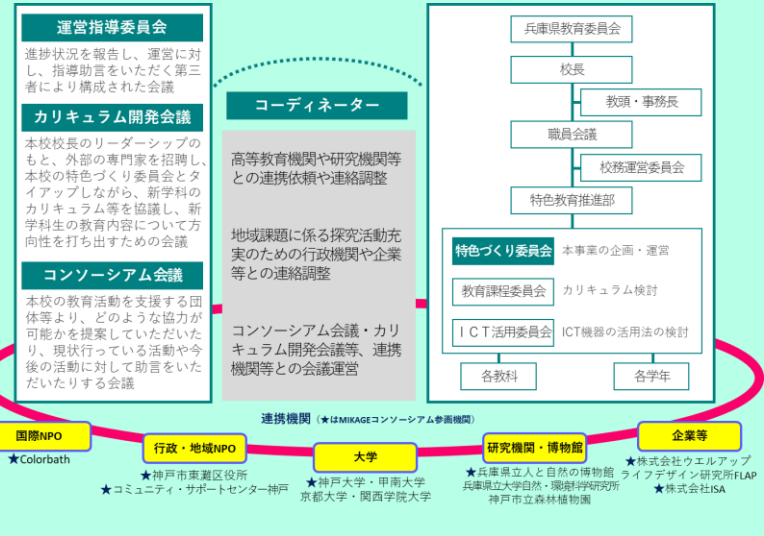
7回開催したカリキュラム開発会議で、2つのモデル図を開発・共有し、体系的な探究カリキュラムを検討
→令和5年度より先行実施

図2：多層的な探究コミュニティのモデル



関係機関との連携・協働体制の構築

2名のコーディネーターを中心に、協働体制を構築



学びの先行実施

学年を越えた探究発表会
県外高校との探究発表会
11回のクリエイション講座 等



2年生が1年生に探究成果発表



県外高校との探究発表交流会



NPO法人の方を招聘した授業



企業の方を招聘した授業

令和5年度の課題

学科開設準備最終年度

カリキュラム

- 先行実施の成果検証
- 新たなカリキュラムの開発

関係機関との連携強化

- クリエイション講座の拡充
- 連携協定の締結

広報活動の充実

- 中学生や保護者への周知
- 地域内外に向けた取組の発信

校内体制の整備

- 学科準備委員会の設置
- 新たなカリキュラムの実践準備

入学選抜方法の検討

- 最適な方法の検討
- 入学選抜方法の周知

令和6年度
学科開設





創立80周年を迎えた伝統校

神戸市の中心、神戸三宮駅から15分で本校正門にアクセス可能な交通至便な位置にある伝統校。地域からの信頼も厚く、3万人を超える卒業生を輩出し、令和3年度には創立80周年を迎えた。令和6年度より、平成19年度に設置した総合人文コースについて、学際的な探究活動を軸とした文理探究科に改編することが決定している。

国公立大学 現役合格者 約4割

何事にも真面目に取り組む生徒が多く、10～15年ほど前に比べると、近年は国公立大学に現役で合格する生徒数が倍増。いよいよ現役で国公立大学に合格する生徒が全卒業生の約4割程度に。特に、長期休業中の補習や、国公立大学の2次試験対策、小論文・面接対策等、本校の教員が一丸となり、生徒の進路実現の支援にあたっている。

Copyright(C) Hyogo prefectural MIKAGE senior high school.

勉強も、行事も、部活も

令和2年度卒業生を対象とした学校生活に関するアンケートで、本校での生活の満足度は95%との結果が得られた。勉強にも、行事にも、そして、部活動にも熱心な生徒が多く、日々の高校生活は大変充実している。クラスや部活動で得られた友人とともに目標に迎える雰囲気も、いつでも質問に応じてくれる経験豊富な教員の雰囲気も高評価。

みかげ魅力化プロジェクト

半世紀続いた御影高校伝統の制服が、多様性を鑑み、令和5年度入学生から変更された。また、生徒からも要望があったトイレの改修工事を実施し、ホームルームに近いトイレはすべて改修され、最新の設備が整った。そして、令和4年度には、文部科学省の普通科改革支援事業に指定され、探究を軸とした新たな取り組みにも挑戦している。

総合人文コース から 文理探究科 へ

■ 総合人文コース（各学年1クラス40名・平成19年度開設）

国事業の指定なく
独自にカリキュラム開発

【成果】

- ・ **地域の課題への関心**
- ・ **協働探究や発表への積極性**

【リソース】

- ・ **神戸大学生**が毎週探究指導
- ・ **東灘区役所職員**による助言

【課題】

- ・ **教育課程が文系のみ**の対応
→ 中学3年生段階で希望進路を絞る必要（令和3年度・定員割れ）
- ・ 地域での活動に重点を置く教育活動を展開しながら、
教育課程上の制約で、自然科学の視点からのアプローチがしにくい
- ・ **令和7年度には、普通科コースの募集を停止**し、専門学科・普通科新学科・特色類型への改編を予定（兵庫県の高校教育改革の実施）

- ・ これからの社会で求められる人材育成を目指し、**様々な機関と連携し、文理融合の学びを展開**する必要
- ・ これまでのリソースや成果も生かして、**地域の課題を考えること（ローカルな視点）が、地球規模の課題を考えること（グローバルな視点）に繋がっている**と理解できるような学びも展開

文部科学省「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」

■ 文理探究科【普通科・学際領域学科】（令和6年度開設予定）

学校主体の改編

普通科改革支援事業 運営体制

運営指導委員会

進捗状況を報告し、運営に対し、指導助言をいただく第三者により構成された会議

カリキュラム開発会議

本校校長のリーダーシップのもと、外部の専門家を招聘し、本校の特色づくり委員会とタイアップしながら、新学科のカリキュラム等を協議し、新学科生の教育内容について方向性を打ち出すための会議

コンソーシアム会議

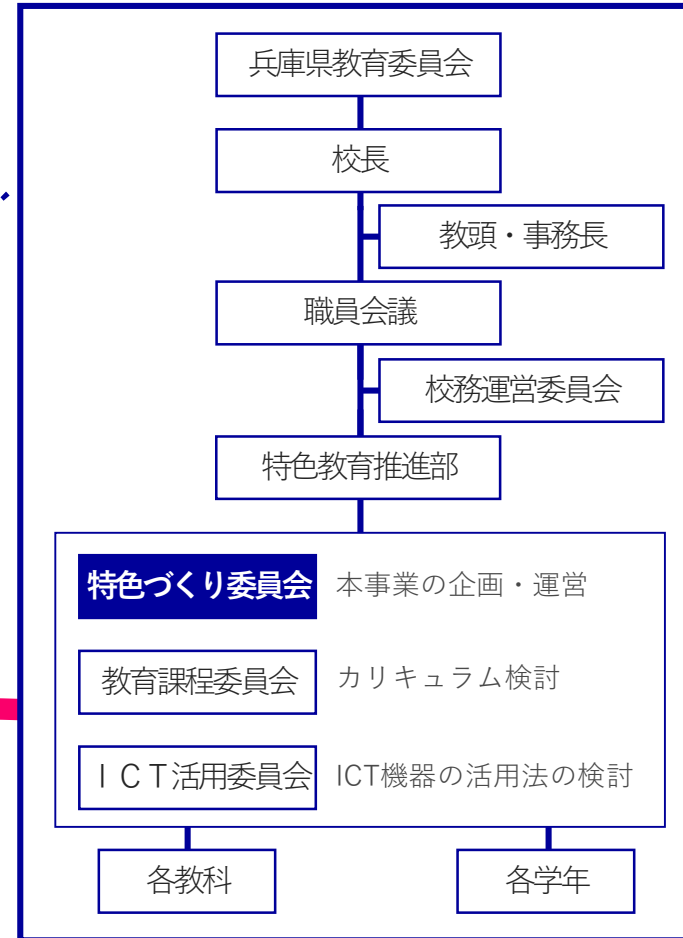
本校の教育活動を支援する団体等より、どのような協力が可能かを提案現状行っている活動や今後の活動に対して助言していただいたり、をいただいたりする会議

コーディネーター

高等教育機関や研究機関等との連携依頼や連絡調整

地域課題に係る探究活動充実のための行政機関や企業等との連絡調整

コンソーシアム会議・カリキュラム開発会議等、連携機関等との会議運営



連携機関 (★はMIKAGEコンソーシアム参画機関)

国際NPO

★Colorbath

行政・地域NPO

★神戸市東灘区役所
★コミュニティ・サポートセンター神戸

大学

★神戸大学・甲南大学
★京都大学・関西学院大学

研究機関・博物館

★兵庫県立人と自然の博物館
★兵庫県立大学自然・環境科学研究所
★神戸市立森林植物園

企業等

★株式会社ウエルアップ
★ライフデザイン研究所FLAP
★株式会社JTB

普通科改革支援事業 三ヶ年実施計画

初年度 / 令和4年度 学科設置準備

- 新学科カリキュラム開発
- 関係機関と連携関係構築
- 学科の特色ある学びの先行実施
- 県外高校との発表会
- 入学者選抜の検討

2年目 / 令和5年度 学科設置準備

- 新学科カリキュラム開発
- 関係機関と連携関係強化
- 学科の特色ある学びの先行実施
- 広報活動
- 校内体制の整備

3年目 / 令和6年度 学科設置初年度

- 関係機関の連携協力による活動
- 校内体制の整備
- 広報活動
- カリキュラム開発

初年度の取組

新学科カリキュラム開発や本事業運営のための
仕組み・チームづくりをし、動き出す

■ 新学科カリキュラム開発

→3つの会議

■ 関係機関と連携関係構築

→クリエイション講座

■ 学科の特色ある学びの先行実施

→クリエイション講座・生徒の探究発表会

■ 県外高校との発表会

→岡山学芸館高校との課題研究交流発表会

■ 入学者選抜の検討

→総合人文コース 学力検査（英語・数学）、実技検査（英語リスニング）、小論文、面接
からの変更を検討【今後の課題】



実践成果①

事業指定初年度で順調に議論・検討が進行
→既存の枠組みで2年先取りで先行実施する授業を実施



兵庫県立御影高等学校
Hyogo Prefectural Mikage Senior High School

- 本事業において設置した「**運営指導委員会**」「**カリキュラム開発会議**」「**コンソーシアム会議**」
→**コーディネーターが議事進行を担当**・新学科に向けて新たな視野を与えていただける場
→「**特色づくり委員会**」も含めて、忌憚なく意見が言い合えたり、悩みを共有したりする場を設定

本事業での新たな組織

本事業に関する指導・助言

年3回実施「**運営指導委員会**」

多様な経験を有する委員より新たな可能性を示唆

新学科のカリキュラムに関する検討

年7回実施「**カリキュラム開発会議**」

新たなカリキュラムについて研究者の立場から助言

支援団体との意見交換

年1回実施「**コンソーシアム会議**」

どのような協力が可能かを提案・活動に対する助言

校内組織

校長

校内諸会議等

特色教育推進部

新学科に関する案を検討する校内組織

年22回実施「**特色づくり委員会**」

教頭・主幹教諭・教務部長・学年代表・特色教育推進部
(週1回開催)

普通科改革支援事業 チームスタッフ

コーディネーター



竹中 敏浩 氏

兵庫県立人と自然の博物館 特任研究員。専門は地学。県立三木東高校・北摂三田高校長を歴任し、定年退職後、同博物館専門員を経て現職。博物館の生涯学習講座や大学・研究機関等とのコーディネーター業務を担当。武庫川女子大学薬学部の非常勤講師も兼任。

担当コーディネーター機能(*1)と 具体的な仕事

■高校におけるコーディネート機能

- ・ビルドアップレクチャーの計画、運営

■協働体制におけるコーディネート機能

- ・3つの会議のコーディネート、ファシリテーション
- ・本事業や特色づくり委員会等での積極的なコミットメント



東 善仁 氏

合同会社ユブネ共同代表。神戸・奈良・島根を拠点とし、地域プロジェクトの企画運営を担う。近年は神戸市西区のイベントの企画運営、兵庫県立大学通信の編集、奈良県宇陀市の地域プロジェクト「NCL奥大和」のコーディネートを担当。

■高校におけるコーディネート機能

- ・クリエイション講座（STEAM講座）のコーディネート
- ・クリエイション講座案内文作成

※本事業に関わるメンバーの連絡ツールの整備、運用

本校のコーディネーターの勤務実態

- 県教委から「週1日の非常勤」・「カリキュラム開発等専門家」としての委嘱
→両コーディネーターは別の仕事との兼務。週1回出勤。年間280時間（週あたり7時間程度）の勤務。
- 担当教員との打合せ
→週ごとに担当教員と打合せをし、出張等の予定も含め、あらかじめ勤務計画を提出。
→会議や講座に関するイメージは、可能な限り言語化・可視化し、齟齬がないように双方とも努めている。
→県教委からの連絡は、本校管理職から担当教員に伝えられた後、担当教員から両コーディネーターへ。
- 情報共有の工夫
→東コーディネーターからの提案で、slackを用いることとし、打合せ内容、進捗状況や勤務状況を共有。
- 職場環境と、校内にもたらされているよい影響
→職員室に両コーディネーターの個人席と、専用プリンターを設置。勤務日に実施する諸会議にも出席。
→さまざまな経験をもとに、関連する事業だけでなく、校内の動きについても相談し、提案いただく。
既存の在り方に固執することなく、フラットな意見がいただけるので、新たな取組導入のきっかけに。

本校のコーディネーターの勤務実態

■ 特にご活躍いただいた場面

■ 竹中コーディネーター

会議におけるファシリテーション

→教員の立場からではない議事進行

既存の概念を超えた意見の引き出し

■ 東コーディネーター

教員ではつなげない企業との連携達成

→教員の誰もが「無理だろう」と考えていた企業との連携

柔軟な発想に基づく授業計画・指導案づくり

■ 今後の課題

■ 竹中コーディネーター

急遽発生する事態への対応（常勤化検討を）

新たな事業づくり（国際交流・校外発信…）

次代のコーディネーターへの継承

■ 東コーディネーター

校内職員との連絡法（担当教員の授業時間割調整）

手当の在り方の検討（時間労働→価値労働）

講座講師と教員との振り返りに関する意見交換実施

教員の役割

ーコーディネーターとの「すみ分け」ー



兵庫県立御影高等学校
Hyogo Prefectural Mikage Senior High School

教員の役割



事業全体のデザイン
ゴールに向けた事業マネジメント

→プレイヤーが活躍できる場をつくる

授業や講座のまとめ ー生徒に学びの実感をー

→授業や講座の意味付けをし、学びの連関性に気づかせる

プレイヤーの補助

→非常勤コーディネーターのカバー業務

コーディネーター(非常勤)の役割



割当てられた個別案件のデザイン
プレイヤーとして協働体制を構築、講座や会議を計画

→学校既存の価値観にとらわれず、独自性も大切に

「外」の空気を、学校の中に吹き込ませる

→生徒だけでなく教員にも社会のありようを実感をこめて伝える

マネージャーの補佐 (壁打ち相手)

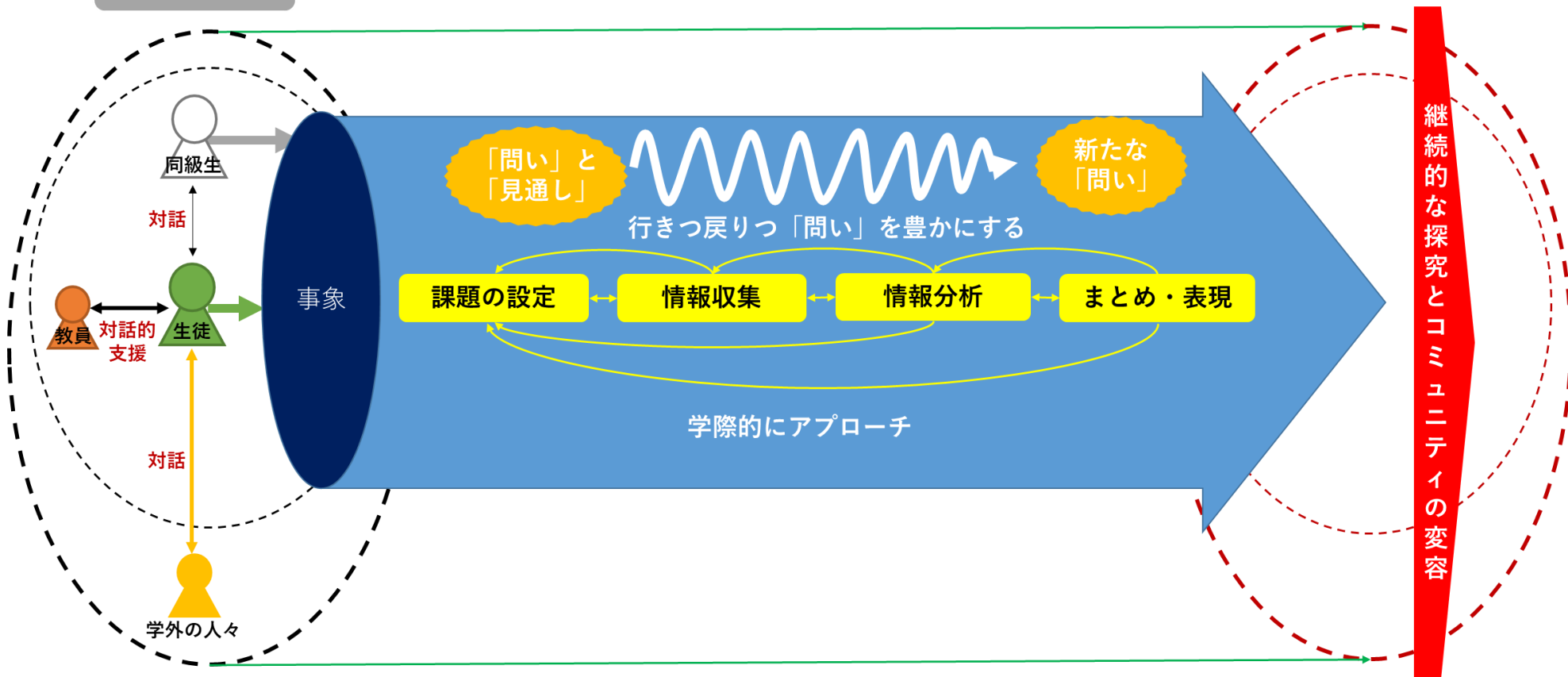
→マネージャーと事業を創発・共創し合う関係に



文理探究科の探究カリキュラム

「学際探究」のイメージ図

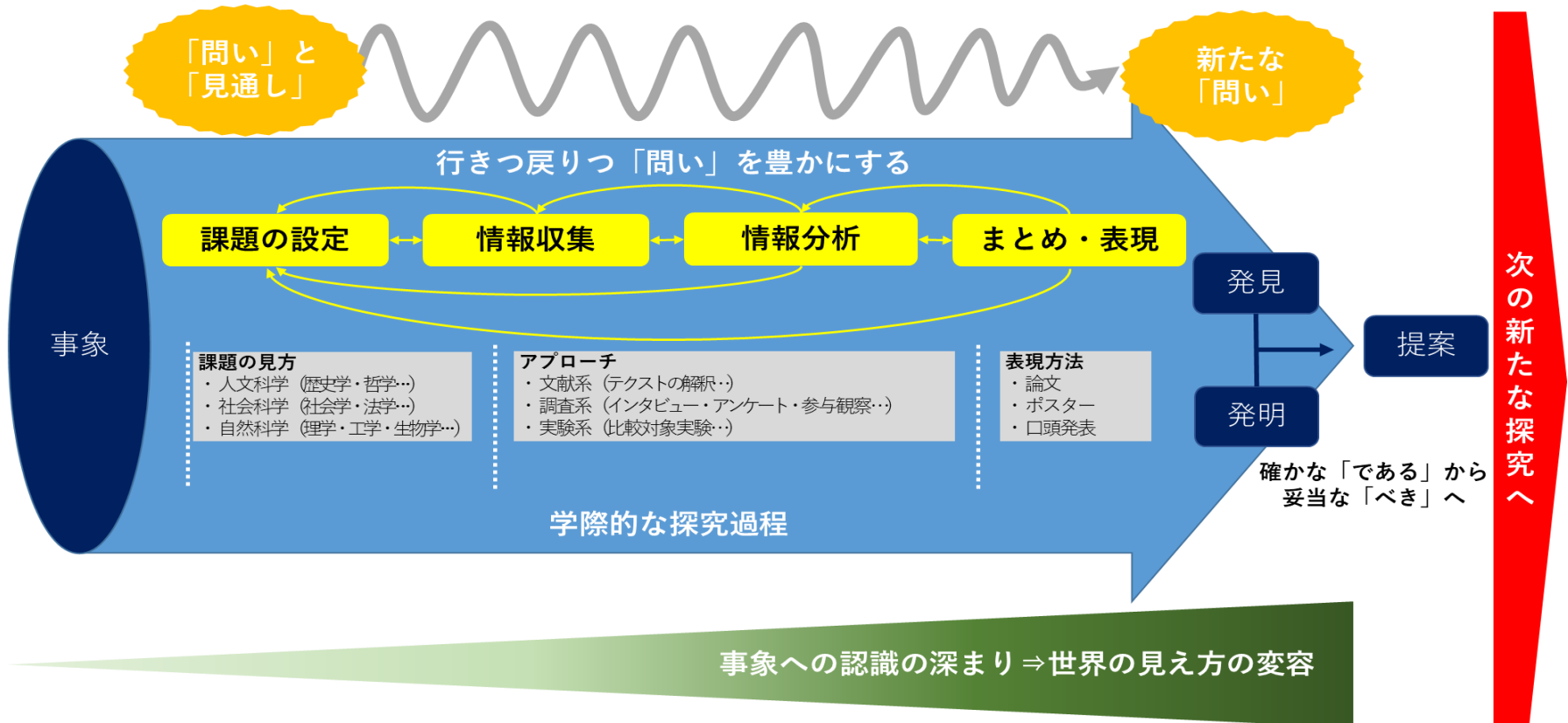
全体概略図



文理探究科の探究カリキュラム

「学際探究」のイメージ図

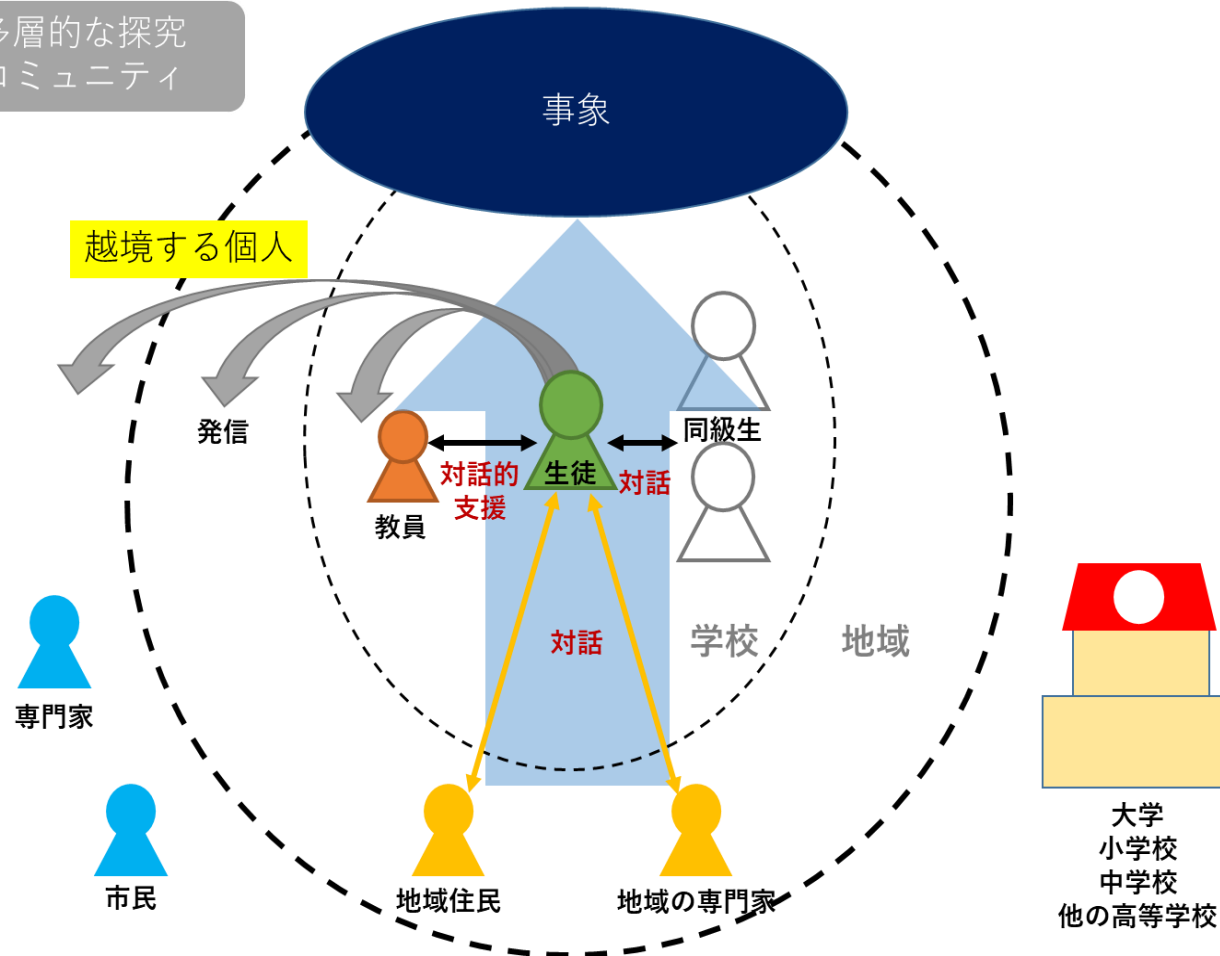
個人の探究過程



文理探究科の探究カリキュラム

「学際探究」のイメージ図

多層的な探究
コミュニティ



実践成果②

コーディネーターを中心とした計画・調整・運営
→事業指定初年度にして11講座を開発・実施

■ 新学科の学びの先行実施「**クリエイション講座**」

→年11回実施（延べ16日・172名参加）

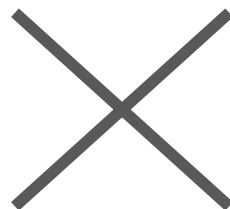
単一日程8講座・複数日程3講座
協力団体から実施の提案もあった

講座内容

「探究基礎」

「STEAM教育」

「社会で活躍するリーダー像」



協力団体・講師

地元企業・有名企業

大学教授

NPO法人

「クリエイション講座」に参加し、どのような力を磨きましたか。（実施後、受講生徒アンケート結果より）

ゴールイメージとして、「**主体性・協調性・課題解決能力・言語表現スキル**」のいずれかを磨く講座展開を講師に依頼しており、ほぼすべての生徒が各講座の講師がイメージした通りの学びができています。

さらに、複数回答を可としているため、上記以外にも、「**物事を多面的に捉える力**」「**自己に対する理解**」「**発想力**」「**大きなゴールを小さく分けて考えること、段取り力、計画力**」「**立ちはだかる壁に楽しんで挑戦する力**」といった回答等、**子どもたちの主体的な気づき**が多々あったことも、講座の成果としてあげられる。

→「学校学校した学び（教員が組み立てる「授業」としての学び）」以外の学びの必要性 → **社会に開かれた教育課程**の必要性

■ クリエイション講座を受講した生徒の変化

- 「クリエイション講座」を経た**生徒たちの主体性**が目に見えて変わってきた。
「クリエイション講座」は、先行実施事業という性格上、自由参加が基本。
もともと「主体性」が高くないという生徒も、興味関心のある講座に参加できた。
「飛び込んでみて良かった感」が、生徒の「主体性」をより高めている。
- 「クリエイション講座」を経た生徒たちが**クラスの中でパイロット的存在**となっている。
(例) **ITテクノロジーを活用した講座を受講した生徒**
→自分のチームのプレゼンテーションで、その講座で得た知識を試している。

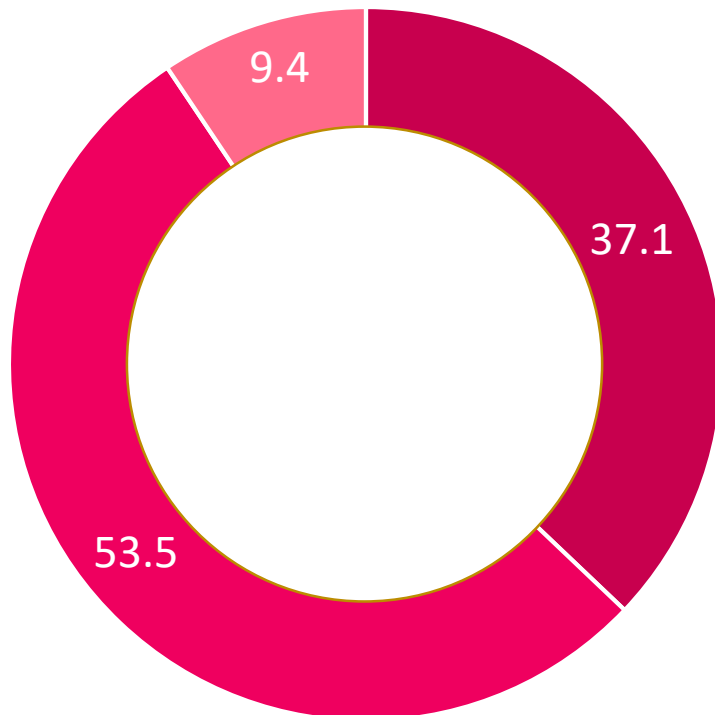
「クリエイション講座」で、一切質問できず、失敗したな、という経験を得た生徒
→自ら挙手し、講師に質問できるようになった。
- 「探究」の意義や「目指す将来像」を再確認し、**学びへの動機**につながっている。
実社会の様子を目の当たりにし、自分の「今、足りないポイント」を見ることができた。
「どうして、今、『探究』に取り組んでいるのか」「将来あんな風になりたい」を再確認できたことが、
学びの積極性につながっていると述べる生徒も出てきている。

クリエイション講座

■ 指標への影響

将来、国や地域の担い手として、積極的に政策決定にかかわりたいですか。

n = 170



- ぜひ関わりたい
- どちらかと言えば関わりたい
- あまり関わりたくない
- まったく関わりたくない

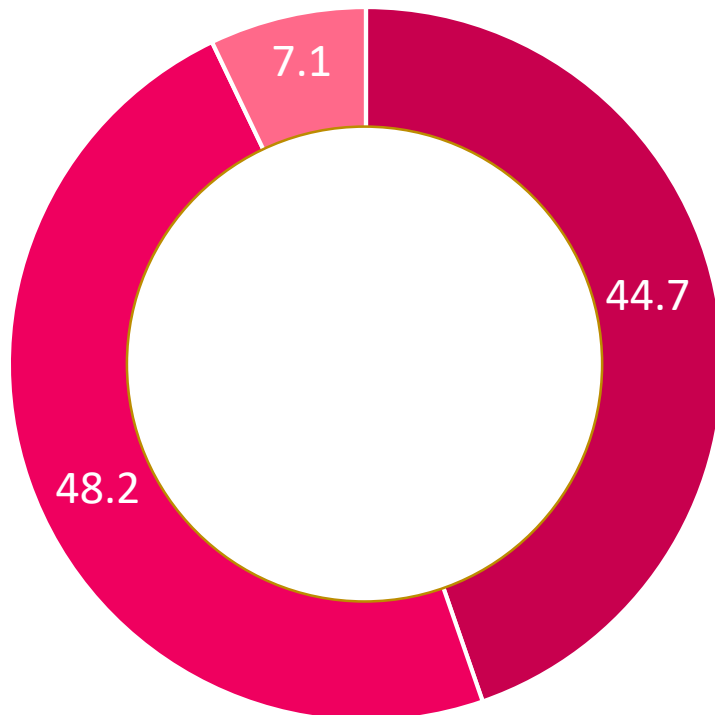
目標値	50%
2022年度	90.6%

クリエイション講座

■ 指標への影響

国際社会の課題解決に自分も貢献したいと思いますか。

n = 170



- ぜひ貢献したい
- どちらかと言えば貢献したい
- あまり貢献したくない
- まったく関わりたくない

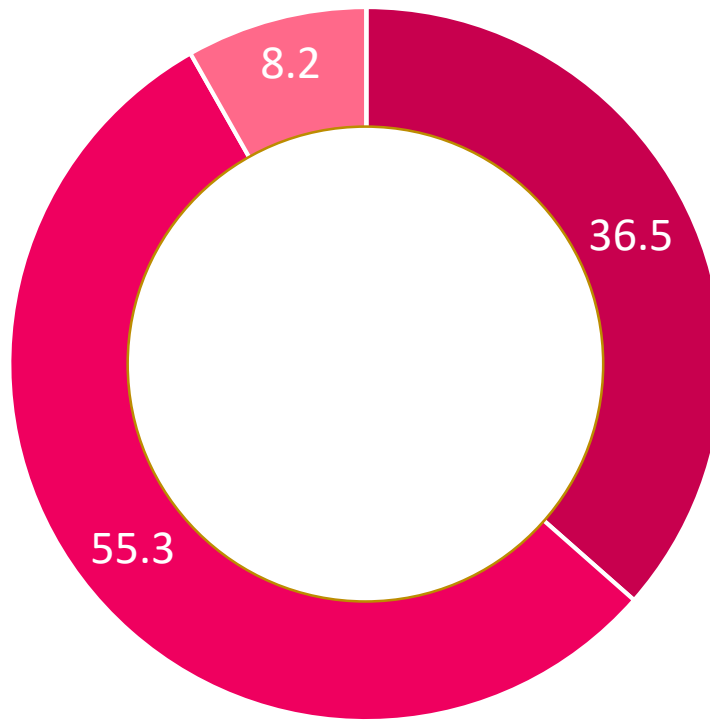
目標値 70%

2022年度 92.9%

■ 指標への影響

課題解決のプロセスにおいて、客観的な証拠に基づき、科学的視点から課題解決にあたることができる。

n = 170



- とてもそう思う
- どちらかと言うとそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

目標値	55%
2022年度	91.8%

実践成果③ 同年齢・異年齢の「高校生」の発表に触れる →自らの探究活動へのさらなる動機付け

■ 学年の垣根を超えた探究発表会

→緊張しながら発表する2年生・意欲的に聴講する1年生の双方にとって、大きな成果が得られる場

■ 県域を超えた高等学校との探究交流発表会

→自ら実施した探究活動の成果を体温を感じる距離で発表することによって、生徒の学びを深めるだけでなく、発表スキルの向上につながったり、さらなる探究活動の動機付けになったりしている

■ シンポジウムや、コンソーシアム団体の方を招いたビルドアップレクチャーの実施

→全校生徒を巻き込んだパネルディスカッションや、生徒の将来像を描かせるきっかけとなる講義の実施

■ 大学等での校外探究発表会

→探究活動のコミュニティを「越境」する契機としつつ、より広い「社会」を意識する

■ 視察訪問への対応・文部科学省での実践発表

→初年度全国から10を超える団体等からの視察をいただき、有意義な意見交換が実施できている。また、文科省にて開催された全国フォーラムにて自校の取組を全体発表。自校の取組の独自性を確認しつつ、他校の実践例をもとに、自校の取組をより深めるきっかけになっている。

生徒の探究成果発表会

■ 県外高校との交流【岡山学芸館高等学校】

- ・ 7月（御影高校にて）、3月（岡山学芸館高校にて）の2度、両校の70～80名程度・計140名が参加する交流発表会を対面にて実施。

「大人」が枠組みだけを調整し、生徒が主体となって、計画・進行。ワクワクする交流会を実施。



生徒の探究成果発表会

■ 御影セッション（学年を越えたポスターセッション）

- ・神戸サンボホールにて2年生と1年生の全生徒が参加する研究発表会を実施。

2年生の一般クラス ポスターを用いた発表 4分×12回発表 【全56ブース】

2年生の総合人文コース パワーポイントによる口頭発表 各テーマ10分発表 【全7テーマ】

1年生全員と、発表を担当しない2年生が各自の興味のあるテーマの発表を聞く。



生徒の探究成果発表会

■ 御影セッション 振り返り



本校初の大規模な探究発表会であったが、生徒にとっても、教員にとっても、大変よい機会となった。

→2年生にとっては、コロナ禍の影響を受け、昨年度に実施した探究活動の発表会となったが、普段部活動等の機会に接している**後輩の前で発表する**という点で、いい緊張感（必死感）が生まれ、前向きに取り組めた。

→1年生にとっては、先輩の発表を見て、カリキュラム改編に伴い、**次年度（2年生時）に取り組む探究活動のイメージづくり**ができる機会となり、食い入るように発表やポスターを見る生徒が多かった。

→総合人文コースの生徒にとっては、同コースの後輩に伝えられたのはもちろん、**自分たちの学びを一般クラスの同級生に伝える機会**はこれまでほとんど設けていなかったもので、よい機会となった。

→こちらの予想を上回る反響があったのは、教員からであった。「探究」の指導に携わったことがない教員や、本校の探究活動を知らなかった教員が、生徒の発表を聞き、**どのような活動を実践しているのか知ることができた**という声とともに、特に発表した第2学年の生徒の普段とは違うよい一面が見られたという声も聞かれた。

その他の取り組み

■ 大学等での探究発表会

- ・ 6月28日(火) 地域探究プロジェクト発表会（神戸大学にて）
- ・ 7月29日(金) 岡山学芸館高校との課題探究交流発表会（本校にて）
- ・ 9月22日(木) 本校主催 御影セッション（神戸サンボーホールにて）
- ・ 11月19日(土) 関西学院大学リサーチフェア（関西学院大学にて）
- ・ 12月18日(日) 甲南大学リサーチフェスタ（オンライン）
- ・ 12月23日(金) 葺合高校主催 課題研究交流発表会（オンライン）
- ・ 3月4日(土) 本校主催 課題研究発表会
- ・ 3月13日(月) 岡山学芸館高校との課題探究交流発表会（岡山学芸館高校にて）
- ・ 3月20日(月) 東灘区役所×御影高校 意見交換会（東灘区役所にて）

※岡山学芸館高校との交流発表会は、両校生徒だけで、当日の流れや、当日の行程を企画します。

その他の取り組み

■ 生徒入学初年度に向けた広報計画

■ 他校等からの視察対応

- ・ 北海道釧路湖陵高等学校
- ・ 和歌山県立橋本高等学校
- ・ 和歌山県立新宮高等学校
- ・ 福岡県立八幡高等学校
- ・ 大分県教育庁
- ・ 熊本市立必由館高等学校
- ・ 神戸大学 V.school
- ・ 兵庫教育大学 大学院
- ・ ベネッセ教育総合研究所
- ・ 兵庫県立柏原高等学校
- ・ 兵庫県立川西緑台高等学校 等



今後の課題



- カリキュラム計画のさらなる深化
- 関係機関との連携強化
- 生徒入学初年度に向けた広報の充実
- 今後の予算措置

文理探究科の独自科目 先行実施

探究のプロセスの実践を軸とした「学際的に取り組む探究学習」

CROSS I

3つのコアトレーニング

- ・御影地域のエエとこ
プレゼンテーション
- ・学問リサーチ
- ・国際的視野に立ったプチ探究

CROSS I・II

地域探究プロジェクト

神戸大学文学部の大学生とも協働しながら取り組むプロジェクト型探究活動

CROSS II

アカデミックリサーチ

自らの興味関心に応じた「研究」を、希望セミナー講座に分かれ、じっくり取り組む探究活動

CROSS III

探究成果をカタチにする

- ・探究成果を論文にまとめる
- ・2年生の探究活動のメンター

「学際的に取り組む探究学習」を支える独自の内容

クリエイション I

STEAM講座—校外での実践、実社会での体験
ビルドアップレクチャー
(デザイン思考講座・データリテラシー向上講座 等)

クリエイション II

国際貢献活動にかかわるプロジェクト挑戦
ビルドアップレクチャー
(ファシリテーション講座・1on1傾聴講座・リーダー論講座)

クリティカルシンキング

Society50を生き抜く生徒を育てるために「読解力」や「論理的思考力」、「対話力」、「表現力」等を磨くとともに、主体的に他者に伝えたり、他者と伝え合ったりすることで、自らの考えを発展させる体験を行う科目として設置する。

探究英語

Society50社会において、ますますボーダレス化が進む国際社会を見据えれば、ローカルな課題をグローバルな視点で捉える力や、その課題について英語で議論し、意見表明できる力が必要となる。そうした力を育成するために設置する。

1年1学期～2学期

「出会う」
探究プロセスの基礎固め

1年3学期～2年1学期

「実践する」
探究プロセスの展開①

2年2学期～3学期

「挑戦する」
探究プロセスの展開②

3年1学期～3学期

「固める」
探究成果の実感

文理探究科の独自科目 先行実施

探究のプロセスの実践を軸とした「学際的に取り組む探究学習」

CROSS I

3つのコアトレーニング

- ・御影地域のエエとこ
プレゼンテーション
- ・学問リサーチ
- ・国際的視野に立ったプチ探究

CROSS I・II

地域探究プロジェクト

神戸大学文学部の大学生とも協働しながら取り組むプロジェクト型探究活動

CROSS II

アカデミックリサーチ

自らの興味関心に応じた「研究」を、希望セミナー講座に分かれ、じっくり取り組む探究活動

総合人文コース対象の
GLOBAL STUDY I・II
にて実践中

「学際的に取り組む探究学習」を支える独自の内容

クリエイション I

STEAM講座—校外での実践、実社会での体験
ビルドアップレクチャー
(デザイン思考講座・データリテラシー向上講座 等)

すべてのプログラムについて、先行実施し、プログラムの内容とその成果を検証する。

クリエイション II

国際貢献活動にかかわるプロジェクト挑戦
ビルドアップレクチャー
(ファシリテーション講座・1on1傾聴講座・リーダー論講座)

国際貢献活動プロジェクトは次年度4月に実施予定。
他のプログラムは、すべて今年度中に先行実施。

クリティカルシンキング

Society50を生き抜く生徒を育てるために「読解力」や「論理的思考力」、「対話力」、「表現力」等を磨くとともに、主体的に他者に伝えたり、他者と伝え合ったりすることで、自らの考えを発展させる体験を行う科目として設置する。

すべてのプログラムについて、先行実施し、プログラムの内容とその成果を検証する。